

薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例
(2015年8月)

【適正使用】

Q：ワイパックスTM錠を、約2ヶ月間服用したら、調子が良い。止めて良いか？（県民）

A：中断時症候が起こる場合があるので、勝手に止めず、医師に相談する。

Q：授乳中。以前と同じような症状がでたので、残っているファミビルTMを飲んで良いか？（県民）

A：症状が同じようでも同じ疾患とは限らない。残っている薬は服用せず、受診し、医師に授乳中であることを伝える。ファミビルTMのヒト授乳中の安全性データはない。

【副作用防止】

Q：スルピリドを飲み始めて2ヶ月だが、手の震えが出ている。副作用か？（県民）

A：スルピリドは、副作用で手足の震え等を特徴とするパーキンソン症候群が起こることがある。医師に相談する。

Q：小児に使用する抗ヒスタミン薬は、何が良いか？（薬局）

A：ヒスタミンは中枢神経において神経伝達物質として様々な役割を果たしており、抗痙攣作用も有す。乳幼児は、脳内の神経細胞が未熟であり、抗ヒスタミン薬が脳内に移行すると、ヒスタミンによる抗痙攣作用を阻害し、痙攣や興奮等を誘発する可能性がある。血液脳関門を移行しにくいフェキソフェナジン、エピナスチン、レボセチリジン等の選択が望ましい。

【妊婦・授乳婦】

Q：妊娠9ヶ月。パニック障害でアルプラゾラム0.4mgを頓用で服用中。医師は週2回までの使用を指示。服用回数が増えても、大丈夫か？（県民）

A：妊娠後期の連用で、新生児の哺乳困難、筋緊張低下、傾眠等が起こることがあるので、分娩前には量を減らす等の対応が必要である。勝手に増量せず、医師と相談して指示通りに服用する。

Q：授乳中。クラリスロマイシン、チルミンTM100、プロカテロール、セレスターナTM配合錠が処方されたが、問題ないか？（県民）

A：クラリスロマイシン、チルミンTM100、セレスターナTM配合錠（ベタメタゾン、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩）は授乳中でも投与可能と考えられている。

クラリスロマイシンは、乳児の下痢、軟便、セレスターナTM配合錠は乳児の傾眠傾向に注意する。プロカテロールは、ヒトでのデータはなく、動物で乳汁中に移行することが認められている。服用の直前直後の授乳では、影響が少ない。また、搾乳の方法もある。